

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503593		
法人名	メディカル・ケア・サービス北海道株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム札幌平岡		
所在地	札幌市清田区平岡8条2丁目4-15		
自己評価作成日	平成23年8月25日	評価結果市町村受理日	平成23年11月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170503593&SCD=320
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との交流に力を入れています。今年の納涼祭は、第三町内会とコラボレーションし、町内会は、別予算を設け、わた飴・パン食い競争を企画し、実行しました。その後の運営推進会議には、町内会の方々のみのパワーポイントを作成し、見て頂き反省会もしました。避難訓練では、毎回10名ほどご参加頂き、居室の最終確認もして頂けるほどとなりました。来年は、納涼祭コラボと愛の家の駐車場で『盆おどりコラボ』をしようと計画を立てています。(町内会会議で検討中) ホーム内で取組んでいることは、『キタラに行きたい』との入居者様の声に実現しようと、1月から毎月(7月は夜の時計台コンサート参加の為除く)キタラのコンサートに行っています。(行きたい方のみ6名~8名) また、ホームの鍵を閉め全員で定山溪のホテルに観楓会・石狩あそびビーチに海水浴と全体・個別の外出を実践しています。毎朝ホーム内を15分『365歩のマーチ』にのせて全員で歩行をする取組は1年間休む事なく継続中。バージョンアップに行った月1回の『体操ひろば』は、第10回になりました。常に新しい取組とバージョンアップは、札幌平岡の代名詞です。今期も新しい取組を2つ考案中です。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年10月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営者は、全国に147カ所のグループホームを有し、石狩管内では5カ所のグループホームが切磋琢磨しています。各ホームは、外出行事での車輛借り入れ、緊急時の応援体制、災害時の対応は共通課題とし、連携が構築されています。利用者を中心に「食の大切さを唱える」会長がいて・・・。「愛と情熱」を説く社長がいて・・・。「日本一のグループホームを目指す」管理者がいて・・・。それらの方々の思いを「共感」する職員がいて・・・。「ホームに感謝と信頼を寄せる」家族の方々がいて・・・。「深い理解を持って見守って下さる」地域住民の方々がいて・・・。それらが一体となり、質の向上を目指し、邁進している「愛の家グループホーム札幌平岡」です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼では、自ら進んで挙手し、1名が運営理念を先導する。事務所内・玄関には、運営理念が掲げられ、職員は、常に目に入り、意識して仕事をする事が出来ている。	運営理念に加え、職員の意見が反映されたホーム理念、各ユニット目標、個人目標を策定し、日々の業務や会議等で、理念に沿ったサービスのあり方を確認しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会清掃には、入居者・職員が一緒に参加。児童会館の子供達がダンス疲労・ハロウィン・クリスマスに来訪。納涼祭は町内会と合同で行い、100名以上の方が参加されている。	町内会とホームの行事には、相互参加があります。今年は、町内会とホームの合同納涼祭を開催し、多くの協力や参加を頂き、交流を深めています。ボランティアや児童館の子供たちの来訪が、楽しみの一つとなっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議は、2か月に一度行っている。町内会からの依頼により、管理者による、認知症のシンポジウムを町内の方対象に行われていた。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月の行事報告・現在の取組を報告している。民生委員から「ふまねっと」に取組んではどうか？等ご意見を頂いている。また年末恒例「年越しそば打ち」は町内の方にご指導頂いている。	多くの家族、町内会の方々や包括支援センターの参加を頂き、ホームの運営状況、自己・外部評価報告、同意を得ての事故報告、地域連携等が協議されています。来年に向けて、町内会と盆踊りの合同開催の提案があり、検討中です。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町内会民生委員・厚生部の方より絵手紙を東北被災地へ一緒に送るとのお話もあり、入居者・職員全員でメッセージ付き絵手紙を作成、被災地へ送って頂いた。	ホーム運営に関する課題（困難事例等）、事故報告、管理者会議等で、市や区の担当者とは、情報交換や適切な助言を頂くなど、連携が構築され、ホームの質向上に活かしています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月1回ホーム内研修を行い、職員全員が勉強する機会を設けている。また、月1回のスタッフ会議では、入居者様の1か月の様子を話し合い、ケア方法を含め振り返りをし、次月に繋げている。	日常業務やマニュアル、会議、内部研修等で、禁止の対象となる具体的行為の理解に努めています。身体拘束廃止委員会も設け、周知徹底を図っています。玄関の施錠は夜間のみで、職員の見守り強化のもと、利用者は外出しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様の様子に目を配り、身体変化・様子の変化を見逃さない様に職員は、周知徹底している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学んだ事を月1度のホーム内研修で全員に周知するシステムが構築されている。今後も継続していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重説・運営規定・重度化の指針・個人情報・預かり金規約・自己評価等を読み交わし、ご理解頂くまで、説明を納得頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	カンファレンスの参加・運営推進会議・家族会・年に1度のご家族様アンケート(回答は直接本社宛)等でご意見を頂いている。アンケート結果の改善は月1度発行の便りでご報告している。	意見や要望は、話しやすい雰囲気作りに努め、日々の関わりや家族来訪時、電話、介護計画作成時、家族アンケート等で収集し、課題は、状況に合わせ、ホーム、運営推進会議、本社等で協議し、要望に沿うよう努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	不定期個人面談・職員アンケート(回答は直接本社宛)年2回のマイレボ(当社独自の自己評価表)を通じて把握できる。また、マイレボは、2次評価をし、職員にフィードバックしている。	職員の意見や提案は、日常業務や会議、個人面談、本社の職員アンケート、自己評価表等で把握しています。発言しやすい環境を整え(意見を否定しない)、表出された提案等を運営に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員への表彰制度がある。また、入居者様と職員2ショットに限った、フォトコンテスト・技を持っている職員のコンテスト等、全員に光があたる様配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部の研修参加しやすい様、研修の日は、シフトの調整をしている。また、一定額迄は、研修費を補助するシステムもある。ヘルパーを習得する時は、半額を補助している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	清田区内GH管理者会主催の交流会・年3-4回の講習会に参加し、他事業所の職員との交流が持っている。また、近隣の他事業所のお祭りにも入居者様と共に参加し、交流している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にしっかりアセスメントし、ケアプランを暫定で作成している。入居前にある程度把握し、入居後は、ご家族・ご本人からの情報を職員で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時・カンファレンスで要望を伺って改善に努めている。不安の無い様、どの職員も来訪・帰訪時の挨拶を徹底し、話安い雰囲気意識している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には、出来る限り御本人にホームを見て頂くようにしている。医療機関から理美容迄、細かなサービス提供の説明・合意をする様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	買物・散歩・洗濯物・調理を一緒に行い、その中でも、入居者様の尊厳を守り、コミュニケーションをとり、日常を過ごしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、日常の様子をご報告している。また、カンファレンスには、ご参加頂き、情報の共有が出来ている事が多くみられている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に通っていた馴染みの美容室に入居後も変わらず、通われたり、遠方の檀家である寺より住職が彼岸・祥月命日には来訪され供養をして頂いている。	馴染みの商業施設の利用や生家、利用以前の居宅への訪問等は、家族やホームが支援しています。居室への住職の訪問や友人・知人の交流支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホーム内歩行・体操ひろば・絵手紙の日等を通し、ユニット間を越えての交流がある。交流が苦手な入居者様には、職員が中に入り話をつなげられる様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	紙芝居のボランティア・納涼祭のお手伝い等、ご退去された方のご家族様が来てくださっている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフ会議では、一人一人を検討する時間を設けている。また、悩んだ時には、そのご入居者様を中心に置き、物事を考える様にしている。	利用者の生活歴や日々の関わりでの会話、家族からの情報を参考に、会議で回想法を取り入れ、一人ひとりの思いや意向を汲み取っています。音楽鑑賞会やバッチワーク展覧学会、観風会等が実現しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報を全員が周知出来る様に個人のファイルを用意し活用している。ファイルは全員が確認できる様に定位置に保管している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	報連相を常に意識する事で、生活のリズム・特変に直ぐに対応できる様にしている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは、毎月10日迄にユニットごとに全職員が提出している。全員が提出する事で、カンファレンスではチームケアの方向性を見出しやすくしている。	介護計画は、利用者、家族の意向を踏まえ、医療関係者の意見や個別の記録等を参考に、全ての職員の意見が反映されています。定期見直し時や緊急時は、計画を見直しています。計画は、介護記録に連動し、統一したケアに取り組んでいます。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様個別のノートはどんな些細に事も記入し職員が共有している。またプランは記録と同ページに差込事で実践しやすく改善箇所も容易に気付く。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月2回の往診後、服薬・変化のあった方にはご家族へ連絡している。また個人宛お便りには担当者から1カ月の様子・連絡・身体状況をお知らせしている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者は廃油が貯まった時には地域ふく町に歩いて届けに行く。また町内会清掃・ゴミ拾いに積極的に参加している。回覧板も必ず一緒に回している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科に関しては、提携医に診て頂いているも、それ以外は、希望により様々な受診先がある。ご家族の対応が無理な時は、職員の対応も迅速にしている。	協力医療機関による月2回の往診や、希望するかかりつけ医の受診は、家族やホームが支援しています。受診内容は関係者の共有とし、適切な健康管理が行われています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護日は、看護師に随時看護の適応部分をお願いしている。また、適切なアドバイス・緊急時点滴施行も実施して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、お見舞いに行き、医師・看護師に状況を伺っている。また、地域連携室を設けている病院は、SWと退院経過の話をし、病状把握が出来ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは、提携医師・訪問看護・ご家族職員、全員で行う体制が出来ている。看取りのカンファレンスは、職員全員が【後悔のない看取りケア】を掲げ、緊急時のツールも徹底している。	重度化や終末期に向けてのマニュアルや指針、同意書を整備しています。今年5月に看取りを経験しています。管理者は、利用者、家族、他の利用者の方々、職員の心身の状態を踏まえ、医療関係者、家族と情報を共有し、意思統一したケアを実践しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	H23・3月より9月迄に、職員全員が救急救命講習を習得した。職務の一環とし勤務内に4時間コースを受講し資格書を保持。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2-3回消防署の指導・総括の中、開催している。町内会からは毎回10名前後の方がご参加頂き職員と共に訓練頂いている。町内会より反省点も頂、改善している。	町内会の方々の多数の参加を頂き、消防署協力の下、夜間想定避難訓練を2回実施し、課題は次の訓練に活かしています。災害時の備蓄品、避難場所も確保しています。今回は、水害想定訓練を予定しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご家族との外出時、その方によっては入浴時にも居室に施錠しプライバシーのある生活を保つ様対応している。	職員は、利用者一人ひとりの人格を把握し、言葉遣いや対応には十分に配慮しています。個人情報に関わる書類は、事務室内で管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	パッチワーク展・キタラコンサート等希望に応じている。また、自己決定しやすい会話を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買物・散歩・家事・畑仕事・お一人お一人が過ごしたい様にご自身のペースで生活している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性は日に1回髭剃りをしている。女性は化粧をする方外出時にはスラックスの交換等思いのまま生活されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居者・職員と一緒に食事の準備・片付けをしている。車椅子の方は、自席に荒い終わった食器を持っていき、布巾で拭いて頂いている。	栄養バランスに配慮した献立は、本社が作成していますが、利用者の好みや希望、行事食は、柔軟に対応しています。畑で収集した野菜が調理されています。「この食事、全部手作りなんだよ」と、利用者の声があります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算されたメニューが本社より配信される。歯のない方は軟飯と超刻食を提供。ペイストではなく刻食にする事で咀嚼をする様支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者粗全員の方が口腔ケアをしている。3度出来ない方は、夕食後には、必ず、日1回は出来ている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙おむつ使用の方は、1人もいない。全介助(介護5)の方も布の下着を使用している。夜間帯は18名中2名ポータを居室に設置するも、使用頻度は少なく、トイレへ誘導している。	職員は、一人ひとりの排泄パターンを共有し、トイレでの排泄支援に努めています。夜間時に、ポータブルトイレを使用する方もいますが、タオルを掛けるなど、羞恥心にも配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘解消には、野菜ジュースを寒天で固めるゼリーまた、毎朝15分間ホーム内歩行運動・体力測定を実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、お一人お一人お湯を変えている為、ご入居者様の嗜好に合わせた入浴剤を利用している。色・臭いでリラックスした時間を楽しんで頂いている。また、毎日入浴はしている。	毎日入浴できる体制を整えています。同性介助に配慮し、週2回以上、午後から入浴ができ、一人ひとり湯を入れ替えています。入浴が楽しい場となるよう、風呂用のれん、入浴剤、浴槽に浮かべるグッズ等を用意しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活歴を把握し早寝方・遅く迄テレビを観賞する方・ご自身で8時に寝ると決めている方と就寝時間は様々。就寝時は安眠出来る様灯り等も個別化。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬個別マニュアルを各ユニットに設置し、直ぐに確認し易い工夫をしている。また、服薬支援時は、日付・名前を声にし、誤薬を回避している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人の役割を持って頂ける様、3食のメニュー書き・布巾縫い・タオル掛け・掃除機・回覧板等工夫し、工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	キタラに行きたいとの要望より毎月6名の入居者がキタラへ音楽を聴きに行っている。時にはご家族の参加もある。海水浴は3年継続している。今年のご家族も参加され協力を得られている。散歩にはご家族の家迄、歩いて行く。	毎月、多数の外出行事（花見、コンサート、動物園、海水浴等）を企画しています。系列のホームの車輛を借り受け、全員での外出や個別対応の外出で気分転換に繋げています。外出希望が殆ど無かった方も、職員の声かけにより、現在は参加しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時は、御本人のお金を持って行かれ、ご家族にお土産を購入している。職員は必ず、付き添いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙は希望時対応している。手紙は、各ユニットスタッフと一緒にポストに投函しに行っている。体調を考慮し、車椅子を使用する事もある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に雛人形・五月人形・鯉のぼり・薄・ツリー等を飾っている。フロアには、季節に合った手作り物を飾り、【今の季節】を感じて頂いている。お月見は、手作り満月と薄で、雨が降っても、お月見が出来る。	ゆったりとした造りの居間には、畳敷きのコーナーを設けています。各ユニット内や、廊下、玄関には、季節感溢れる利用者の作品や、ボランティアによる絵手紙、節句の飾り物等が展示されています。採光、空調にも十分配慮し、居心地の良さが感じられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有廊下には、ソファ・テーブルを設置し、両ユニットの入居者様がそれぞれ自由に活用している。また各ユニットの廊下にも備え付けベンチがある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、馴染みのある家具を持ち込んでいる。写真・手作り作品・絵等嗜好に合わせ飾っている。オルゴールを大切に、居室より音が聞える方もいる。	居室には、洋服ダンスが備え付けられています。利用者や家族が希望する家具や調度品、趣味の物が配置され、馴染みの部屋になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には、表札を掲示しトイレ・浴室・洗濯室等はプレートを設置している。トイレは、さらに目の高さにトイレと掲示している。		